

事例番号 105 城下町の町並み再生と住民・行政協働によるまちづくり  
(兵庫県豊岡市(旧出石町))

1. 背景

2005(平成 17)年 1 月に豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、但東町と合併して新・豊岡市(人口約 8 万 9 千人)の一部となった出石町は、兵庫県北東部に位置する人口約 1 万 1 千人のまちであった。江戸時代には 5 万 8 千石の城下町として但馬の政治・経済の中心地となり、「但馬の小京都」と呼ばれた。現在でも基盤目状の町割りがよく残っている。しかしながら近代に入ると、1996(明治 9)年の大火で旧城下町が焼失したことや鉄道路線から外れたことなどが影響して、出石町は次第に経済発展から取り残されるようになった。特に戦後は活気を急速に失う状況となった。

そのような状況下、出石町は昭和 40 年代から城下町の町並みを活かした地域活性化に取り組み始め、昭和 43 年には出石城隅櫓が町民の寄付で復元された。また、町は城下町のシンボルであった辰古楼の復元や、地域の伝統的な食資源であった出石皿そばの PR などに積極的に取り組んできた。その甲斐あって、1977(昭和 52)年 8 月には国鉄周遊地指定を受け、京阪神から城之崎方面等の日本海へ抜けるバスルート上の観光地として着目されるようになり、年間 100 万人以上の観光客が訪れるようになった。

しかしその一方、中心市街地の商店街では空き地や空き店舗が見られるようになり、行政や商工会では地域資源や観光と連携したまちづくりを実施する必然性が生じていた。そのような状況下、宮脇檀氏が町で数多くの建築を行うとともに町づくり提案を行ったことがまちを見直すきっかけとなり、町の歴史的風土を大切にしたいまちづくりが活性化した。また、第 3 セクター「株式会社出石まちづくり公社」が 1998(平成 10)年に設立され、観光と連携した商店街活性化の取り組みが進められるようになった。



出石町の位置と交通アクセス (資料:NPO 法人但馬國出石観光協会ホームページ)

2. 目標

出石町振興計画は、「ひとと暮らしがやさしくとけあう伝統と創造の都・いざし」をまちづくりの目標とした。一方、「出石まちづくり公社」は、民間の活力と発想を生かして将来を展望したまちづくりに貢献する事業を行うことを目的としている。その趣旨は次のように表現されている。

商業の中核をなす商店街で空き地や空き店舗を目にするようになってきた一方で、出石町には年間 100 万人を超える観光客が訪れている。そんな中、町民による「まちづくり」活動が盛んになってきた。その活動をさらに発展させるため、民間の活力と発想を生かし、出石町の将来を展望した「まちづくり」に貢献することを目指す。

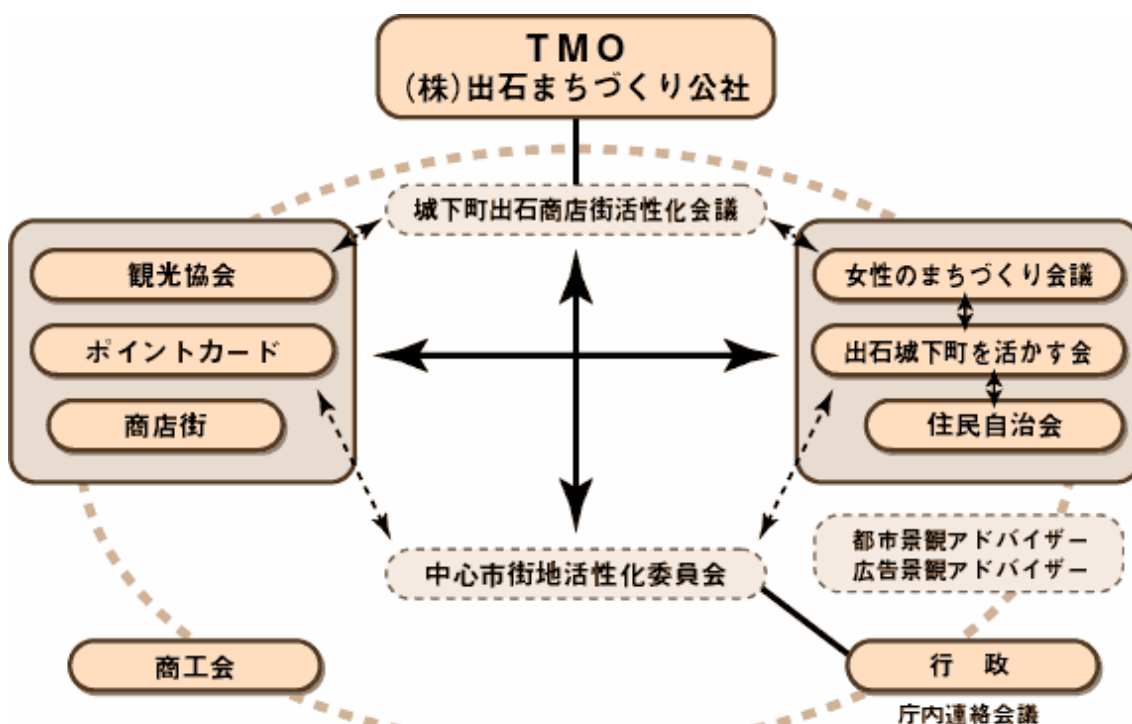
このような認識の下、同社では多くの観光客を誘引する観光地の魅力を基盤としつつ、地域住民の「地域を愛する心の醸成」と「誇り高い地域の創出」とを目指し、歴史的な町並みを次世代に伝える住民主体のまちづくりを推進することとしている。

### 3. 取り組みの体制

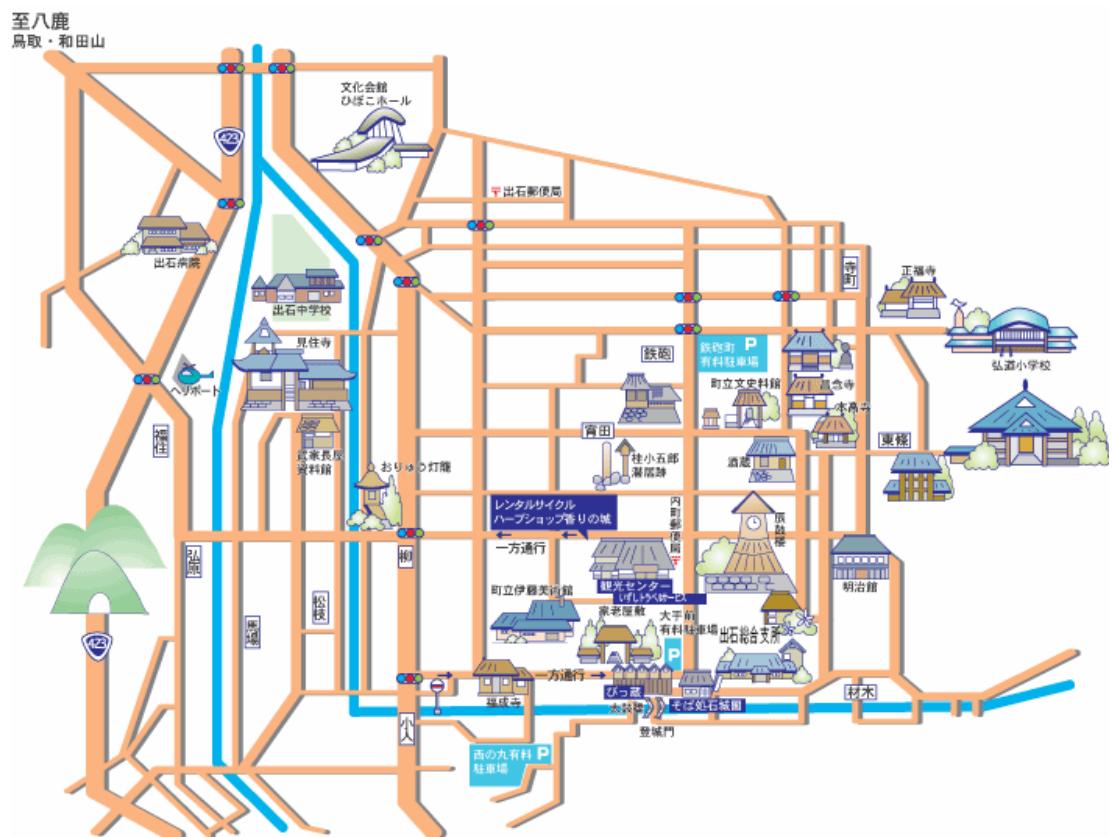
宮脇檀氏が町で様々な建築を行ったこと、また、まちづくり提案を行ったことが人々が町の歴史的風土を見直す大きな契機となり、宮脇氏中心にまちづくりが進められた。また、市民と行政との連携により、「街なみ環境整備事業」などを活用しつつ町並み景観の保全整備が進められてきた。

一方、第 3 セクター「株式会社出石まちづくり公社」が観光と連携させつつ商店街の活性化を図っている。同社は 1998(平成 10)年に観光協会の事業部門を独立させる形で設立され、現在では中心市街地活性化に取り組む TMO の認定も受けている。

「出石まちづくり公社」と連携しながら協働でまちづくりを進める組織としては、2005(平成 17)年に NPO 法人格を取得した「NPO 但馬國出石観光協会」や、町並み保存整備を住民の視点で進め、まちづくりの伝統を培っている「出石城下町を活かす会」などがあり、それらが行政や商工会などと連携して各種のまちづくり活動を実施している。



出石まちづくり公社と諸団体との推進体制 (資料:株式会社出石まちづくり公社ホームページ)



旧・出石町地区観光 MAP (資料: 出石まちづくり公社ホームページ)



旧・出石町地区全景 (写真提供: 豊岡市、以下同じ)



出石城隅櫓(上) 城下町のシンボルとなっている辰鼓楼(下)

#### 4. 具体策

##### (1) 宮脇檀氏による建築とまちづくり提案

旧・出石町は、1983(昭和 58)年度に「斎藤隆夫記念館静思堂」の建築設計を建築家宮脇檀氏に依頼した(「兵庫県第 1 回みどりの建築賞」受賞)。その際、宮脇氏は建築設計にとどまらず、旧・出石町の歴史的町並みに着目し、都市核形成事業など大手前周辺を基盤とするシンボルゾーン整備に関する構想を行政に提案した。それが契機となり、歴史的風土を重視したまちづくり活動が宮脇氏中心に町内で継続的に展開されることとなった。

宮脇氏は、静思堂建築の後も、「町立伊藤美術館」(平成元年度、「兵庫県みどりのまちなみ賞」受賞)、「出石町役場」(平成 4 年度、「兵庫県第 4 回さわやか街づくり賞」受賞)、「出石中学校」(平成 10 年度)と、歴史的風土を生かした建築作品を次々に生み出し、住民を巻き込んだ町並み整備運動に大きな影響を与え続けた。

##### (2) 「出石城下町を活かす会」による地域資源の保全等

1987(昭和 62)年に「兵庫・町並みゼミ」が出石町で開かれたが、それが契機となって町並みを守ろうとの意識が高まり、翌 1988 年、「出石城下町を活かす会」が発足した。会では、城下町を活かす活動として、芝居小屋「永楽館」の修復・復活、機関誌「連格子」の発行、環境保全、酒蔵保全、地酒の復活など幅広い活動を行っており、行政と一体となってまちづくりを進めている。

##### (3) 町なみ景観の保全

1985(昭和 60)年に「出石町振興計画」が策定され、「内町都市核形成計画」が 1986(昭和 61)年に、「旧城下町再生計画」が 1987(昭和 62)年につくられた。また、同年「都市景観形成地区」(景観ガイドライン)が定められ、さらに 1989(平成元)年には「出石町 HOPE 計画」が始まり、「都市景観形成モデル都市」の指定が行われた。

「出石町 HOPE 計画」は、出石の都市景観形成の上で重要な位置を占めている。この計画に基づいて 1990(平成 2)年に「歴史的町並み調査」が行なわれ、1991(平成 3)年に「町家デザインマニュアル」が定められた。また、1992(平成 4)年には「第 1 回出石景観賞」の表彰が行なわれ、1993(平成 5)年から 15 年をかけて「街なみ環境整備事業」が進められた。



城下町の面影を残す町屋のデザイン・町並み



城下町の面影を残す町並み

#### (4) 「株式会社出石まちづくり公社」による商店街活性化

1998年に観光協会の事業部門を独立させる形で、第3セクター「株式会社出石まちづくり公社」が設立された。資本金は5,000万円で、出石町が50%にあたる2,500万円を、残りの半分を商工会と地元有志167人がそれぞれ出資した。公社は、行政と住民との協働の街づくりを推進するため、現在、以下のような活動を行っている。

##### 株式会社出石まちづくり公社の事業概要（資料：出石まちづくり公社ホームページ）

###### ① 集合貸店舗の建設

2000(平成12)年4月に集合貸店舗「出石びっ蔵」をオープンした。「出石びっ蔵」には以下の効果が期待されている。

- ・ 中心商店街の業種構成を改善することにより地域消費の利便性を高めること
- ・ 新たな小売商業群の誕生で観光で訪れる人々の回遊性と中心商店街活性化の起爆剤となること

###### ② 空き地・空き店舗の有効活用

商業集積機能を高める小売り・サービス業種を積極的に誘導し、中心市街地商店街におけるテナントミックス機能の強化を図り、併せて、空き地、空き店舗を利用した町屋ギャラリーや休憩所などの整備を行う。

###### ③ 交流施設の整備

観光・ショッピング等に関する情報サービスの提供やミニイベント等の開催拠点の整備を行い、商店街来街者の誰もが利用できる交流型の空間づくりを目指す。

④ その他関連する事業

- 1) 歩行者・車椅子専用橋の設置 2002(平成14)年4月完成
- 2) 観光PR施設の整備
- 3) 田舎暮らし体験提案
- 4) 公共施設等の維持管理業務
  - ・ 特産品集合化店舗の設置 ・ 観光PR施設の設置 ・ 商店街活性化事業の推進

1999(平成11)年には、公社により「出石町中心市街地活性化基本計画」が策定され、続いて公社によるTMO事業構想が策定された。これらにより運営体制が整ったことを受け、2000(平成12)年に公社が「出石びっ蔵」をオープンした。これは、商店街の空き家を活用して商店街に観光客を誘導する取り組みの一環として、リノベーション補助金を活用して整備した集合貸し店舗である。土産品販売、そばうち体験施設、特産品直売所等7店舗が入居している。

公社の事業で独立採算制で経営されているものは、すべての事業で黒字となっている。それは、観光ガイドとしてシルバー人材センターやパートを活用したこと、出石観光センターの整備などでは補助金を活用して経費削減を図ったこと、観光客数の順調な伸びがあったこと等による。公社は2006年1月に960株の増資を一般公募により行って資本金9,800万円、総株主数330名になり、順調な事業拡大を図っている。



観光客で賑わう「びっ蔵」



## 5. 特徴的手法

町並み保存に関して住民と行政とが連携して数々の取組を行なってきた。行政が行なわなければならないこと、住民が動いてまちづくり活動の中で取り組むべきことなど、パートを分けてお互いが手を組みやすいような状況を醸し出し、全体の活動にまとめていった点が大きな特徴といえる。

一方、出石まちづくり公社に関しては、中心市街地活性化を観光とをうまく連携させて事業展開を図ってきていることが大きな特徴である。かつての出石町は観光施設がほぼ1ヵ所に集中していたため、表通り以外は閑散としており、また、町内の住民は観光客をさけて町外の大型店へ向かう傾向があった。このような状況に対し、公社では観光客、住民ともに魅力を感じる施設の整備を行い、観光客の回遊性を高めるとともに、地元住民との交流も活性化させる方向で施策を展開してきており、効果をあげてきている。そのような方向性は、中心市街地活性化基本計画の特徴が「観光客を商店街全域に回遊させ、併せて近隣市町の大型店に流出していた町内消費者を呼び戻すための布石」(出石町産業振興課資料より)という点にあり、「観光客のための商店街づくりではなく、出石町民にとってもプラスに」(同)なることをねらっている点にあることからもうかがえる。

## 6. 課題

観光等による経済拡大を背景に協調より競争が目立つようになり、看板や広告物などで町の景観に変化が出てきている。一方、移転や人口減などで空き家になった住宅が持ち主の不在により取壊されて空き地へと変わり、町並みの連続性が阻害される状況も生まれている。

(参考・引用文献)

豊岡市ホームページ

旧・出石町ホームページ

出石まちづくり公社ホームページ

豊岡市教育委員会「城下町出石の街並み保存」パンフレット

豊岡市「伝統的街や建築の意匠構成の手引(町屋デザインマニュアル)」

街元気プロジェクトホームページ